

# 薬剤部だより No.202

山口大学病院薬剤部 2006.11.15

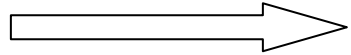


## ケタラール注をすべて薬剤部に返却してください

「薬剤部だより No.196」でお知らせしましたように、2007年1月1日からケタラール静注用200mg、ケタラール筋注用500mgが麻薬になります。これに伴い、ケタラール注を在庫している(救急カートも含む)病棟及び外来は11月中に返品伝票を添えて残らず薬剤部へ返却してください。12月1日からは伝票による払い出しは行わず、処方箋によりその都度調剤します。また、1月1日からは麻薬処方箋での取り扱いになりますのでご注意ください。ご協力よろしくお願いたします。

## カレトラ・ソフトカプセルからカレトラ錠へ変わりました

カレトラがソフトカプセルから錠剤に変更になりました。それに伴い、用法・用量、貯法が変わりますのでご注意ください。

販売名	カレトラ・ソフトカプセル		カレトラ錠
成分 ・ 含量	1カプセル中 ロピナビル133.3mg リトナビル33.3mg	1錠当たりの成分含量が増えました。	1錠中 ロピナビル200mg リトナビル50mg
外観	色: 橙色 剤形: 長楕円の軟カプセル 識別コード: PK	錠剤を割ったり、つぶしたりして服用させない。 嚙んで服用させない。 カプセルと錠剤を混ぜて服用させない。	色: 橙色 剤形: フィルムコート錠 識別コード: KA
用法 ・ 用量	通常、成人にはロピナビル・リトナビルとして1回400mg・100mg(3カプセル)を1日2回食後に服用する。	1回の服用個数が3カプセルから2錠に変わりました。 「服用量が違うので、取り扱いにご注意」 「ください。」	通常、成人にはロピナビル・リトナビルとして1回400mg・100mg(2錠)を1日2回食事の有無にかかわらず服用する。
貯法	気密容器 遮光・2~8 (冷蔵庫) 保存	室温で保存できるようになりました。	室温保存

## MRSA に対する医薬品の購入金額が大幅に上昇しています

現在 MRSA に対して使用されるザイボックス注、塩酸バンコマイシン注、タゴシッド注それぞれの半期(4月~9月)の購入金額の順位が7位、12位、26位となっており、医薬品購入金額を押し上げる一因になっています。

## 製造工程におけるウシ由来物の原産国切り替えのお知らせ 米産からオーストラリア産への切り替え

オーアイエフは精製工程においてモノクローナル抗体カラムが用いられています。これまでは抗体カラムの製造初期段階において米産のウシ胎仔血清が使用されていましたが、この度、オーストラリア産のウシ胎仔血清が使用された抗体カラムを用いて製造された製品に切り替わりました。これに伴い、伝達性海綿状脳症(TSE)等のリスクに関して説明する必要がなくなりました。初回投与時に添付していましたが患者用説明文書「治療に際しての注意事項 伝達性海綿状脳症(TSE)に関して」を廃止します。

## 薬袋メッセージ変更のお知らせ

デプロメール錠(25mg, 50mg)の薬袋のメッセージをより重要度の高いものに変更しました。

変更前: 「かみくだいたりしないこと」 変更後: 「服用中は車の運転等危険な作業を避けること」

変更はされましたが、デプロメール錠はかみくだくと苦味があり、舌のしびれ感がある場合がありますので、注意は必要です。

## 時間外処方に関するお願い

時間外に抗癌剤が処方されることが目立ちます。時間外は抗癌剤チェックシステムも稼動していませんし、製剤室にて混注用のラベルも出力されません。当直者1人で抗癌剤のプロトコールチェックを行うのは容易ではなく、リスクマネジメント上も危険です。抗癌剤のオーダは時間内にするようお願いいたします。

なお、先月の薬剤部だよりで時間外の処方箋枚数の減少をお知らせしましたが、残念ながら最近増加の傾向がみられます。宿直業務は緊急の処方に対応するためのものであることを今一度ご確認のうえ、処方箋枚数の減少にご協力ください。

## 経済効率を上げるためアイソボリン100mg製剤が利用できます

現在採用されているアイソボリン25mg製剤に加え、この度100mg製剤が発売されました。これにより溶解・採取の調製作業回数を減らすことができ、コアリング・細菌汚染リスクの低下、調製時間の短縮が期待できると共に割安になります。

なお、25mg製剤は常圧ですが100mg製剤は陰圧となっていますので調製の際には十分にご確認ください。

## 販売中止のご案内

血漿分画グロブリン製剤『ポリグロビンN』、合成ペニシリン製剤『サルペリン点眼用』の販売が中止となりました。当院の在庫が無くなり次第、常備薬より削除となります。代替品をご検討ください。